

## 公共哲学2（担当：玉手慎太郎）期末テスト問題

A. 以下のそれぞれの問いについて、選択肢から最も適切なものを一つ選ぶ形で解答してください。

（1問5点）

（1）マイケル・サンデルのコミュニタリアニズムの政治理論における人間観はどのようなものか。

1. 人間は高度に理性的な存在であり、所属する集団の伝統的な慣習やルールから独立した視点に立って自己決定することができる。
2. 人間は状況依存的な存在であり、自由に行為しているつもりでも、実際には所属する集団の規範に従って行為しているに過ぎない。
3. 人間は他者との関係を通じて自己を形づくる存在であり、その自由な行為の背景にあるアイデンティティは他者から独立したものではない。
4. 人間は国家に帰属する存在であり、ナショナル・アイデンティティに自己を埋没させることで初めて自由な主体となる。

（2）マイケル・ウォルツァーは「マキシマルな道德」と「ミニマルな道德」を区別したが、以下の道德的主張のうち、マキシマルな道德の方に当てはまると考えられるものはどれか。

1. 人を殺してはならない。
2. 家族は大切にしなければならない。
3. 土足で人の家にあがってはいけない。
4. やむを得ない事情がない限り、嘘をついてはいけない。
5. 子どもを虐待してはならない。

（3）スーザン・オーキンが指摘した、ロールズの正義論の枠組みでは解決できない「構造化されたジェンダーの問題」の例（現代日本の例）として、不適切なものはどれか。

1. 民法において女性のみ再婚禁止期間が定められている。
2. 家庭内において女性の方が男性よりも家事や子育ての負担の多くを負っている。
3. 遺言に基づく相続額が、女性より男性の方が大きくなる傾向がある。
4. 女性の国会議員の数が男性に比べて少ない。
5. 男性の保育士の数が女性に比べて少ない。

(4) オークンの指摘をふまえた平等主義リベラリズムの改善案として、当てはまらないものはどれか。

1. 男女の役割分担を平等なものに改善した上で、家族をもつことをすべての人に推奨していく。
2. 教育を通じて、私たちの慣習や価値観の中にもジェンダーの問題があることについての理解を広めていく
3. たとえば大学受験の優先枠などを通じて、男性の利益を一時的に引き下げても、女性の地位の拡大を目指していく。
4. 女性の権利が適切に行使されるよう、既婚・未婚にかかわらず女性に対する経済的な支援を強化していく。

(5) アマルティア・センが提唱したケイパビリティ・アプローチの説明として、適切なものはどれか。

1. 人間の生活の良さは、その人がもつ実質的な選択肢の幅によって測られるのが適切である、と考えるアプローチ。
2. 人間の幸福は、その人が内に秘めた潜在的な発達可能性の大きさによって決定される、と考えるアプローチ。
3. 人間の生活の安定は、その人の人生にトラブルが生じた際に利用できる社会的資源の大きさによって決まる、と考えるアプローチ。
4. 人間の自由は、ロールズが述べる社会的基本財の量によっては左右されない、と考えるアプローチ。

(6) 社会正義についてのセンの考え方として、適切なものはどれか。

1. 正義の実現とは、あらゆる「明白な不正義」が完全に除去されることを意味する。
2. 単一の正義は存在せず、それゆえ、二つの社会状態のどちらがより正義になっているかを判定することは私たちには不可能である。
3. 正義にかなった社会について考えるためには、アイデンティティの多様性をいったん排除して考えなければならない。
4. 社会の不正義を同定するにあたって、完全な正義が実現した理想状態を理論的に確定する必要はない。

B. 以下のそれぞれの問いについて、選択肢から適切なものをすべて選ぶ形で解答してください。

(1問10点、完全正答のみ認める)

(7) ロールズとセン、二人の正義についての考え方のあいだの共通点は何か。

1. 人々の価値観には多様性があることを前提とし、それを尊重すべきだと考える。
2. 社会のあるべき姿を検討するにあたっては、単一の視点のみから考えることによる偏りを是正する必要があると考える。
3. 社会内の経済的な格差には問題があると考ええる。
4. 正義の理論を正当化するためには、社会契約論の枠組みを用いることがもっとも相応しいと考える。

(8) この講義で論じてきたように、正義の理論をめぐる検討と批判が繰り返されてきたわけだが、それはなぜか。

1. そもそも社会の「正義」という言葉は内容のないレトリックに過ぎず、誰でも好きなように自分のイデオロギーを込めて論じることができるから。
2. 正義に適った社会においては個人の自由が大事である、という点には同意があっても、何を持ってすれば個人は自由になれるのか、その条件は複雑であるから。
3. 社会の正義の理想状態については同意があるのだが、現実にはそれを実現するための手段やコストに制約があり、どこで妥協するかについては確定した答えがないから。
4. 社会正義が求めるものはある程度まで社会的背景に左右されるため、社会のあり方が変化すれば理論もまた再考されなければならないから。

以上 (計8問)

#### 【正答と補足説明】

正答は順番に、3、3、1、1、1、4、1 + 2 + 3、2 + 4となる。50満点であり、同じく50点満点で実施した中間テストとの合計点を最終評価とした。なおノートを持ち込み可として実施した。

選択式の問題というと学生は難易度が低いものとみなしがちだが、その判断は必ずしも正しくない。この期末テストは、単一選択問題にせよ複数選択問題にせよ、授業で解説された内容を細かいところまで正確に理解していなければ正当できない問題となっている(それが特に顕著なのはAの2, 3, 4問であり、これは授業の知識をふまえて自身で応用的に思考しなければ解くことができない)。ノートを持ち込み可としたのも、暗記力を問うのではなく思考力を問いたかったからである。手元のノートを道具として、どれだけ問題に実直に向き合えるかが鍵となる。ノートの中に正解を探しても単位には辿り着けない。